

■ドイツ：洋上風力競争入札で2事業者が補助金ゼロで落札

2017年4月3日に行われたドイツ初の洋上風力競争入札で、デンマークの大手電気事業者 DONG エナジーおよびドイツ4大電力の1つである EnBW が、補助金ゼロで落札した。ドイツの競争入札では通常、卸電力市場での収入に加えて受け取るプレミアム（補助金）の額を入札により決定するが、両事業者は卸市場価格のみで収益が見込めると判断した。今回の入札の対象は、2021年以降に運開する洋上風力発電設備であり、落札したプロジェクトの運開時期は2024～2025年の予定である。両事業者は、運開までに設備の大型化等の技術革新がさらに進み、発電コストの低下が見込めるとしている。今回の入札では募集容量155万kWに対して23プロジェクトの応札があり、落札したのは EnBW の”He Dreiht”プロジェクト（設備容量90万kW）および DONG エナジーの3プロジェクト（合計設備容量59万kW）。このうちの3件は補助金が0ユーロ・セント/kWh、1件は6.00ユーロ・セント/kWh（売電収入を含む）で落札されており、平均落札価格は0.44ユーロ・セント/kWh となった。落札されたプロジェクトは25年間系統に投入され、発電を行うことができる。DONG エナジーのロイポルト CEO は、今回の入札結果に対して「補助金ゼロでの落札は、洋上風力の競争力の躍進を意味しており、技術改良の余地が世界的にあることを示している」とコメントしている。